

教区・組の改編による変化

2008年度・2025年度宗門現勢の比較

(2008年度より第1回門徒戸数調査結果反映)

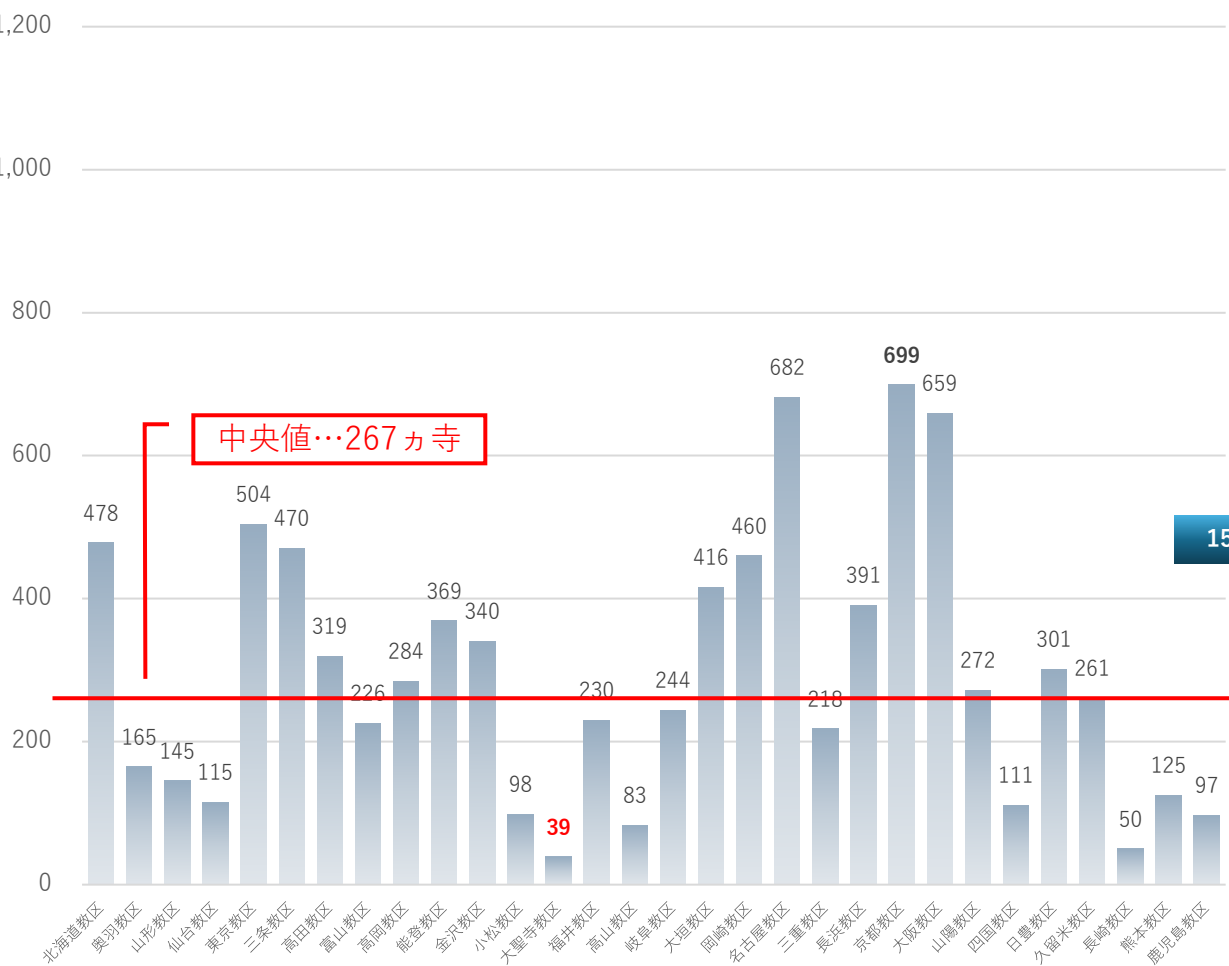
2008年度と2025年度の宗門現勢推移

項目	2008年度(改編前)	2025年度	備考
教区数	30教区	18教区	12教区減少
組数	419ヵ組	390ヵ組	29ヵ組減少
教区の寺院数	最小39ヵ寺／最大699ヵ寺	最小127ヵ寺／最大1,068ヵ寺	18倍⇨8倍
教区の僧侶数	最小166名／最大2,778名	最小478名／最大3,395名	17倍⇨7倍
教区の教師数	最小94名／最大1,548名	最小270名／最大1,722名	16倍⇨6倍
教区の門徒戸数	最小7,114戸／最大125,209戸	最小16,869戸／最大159,876戸	18倍⇨9倍
教務所員(事務職)人数	155名	117名	38名減少
宗務役員(事務職)総数	420名	340名	80名減少
教区駐在教導人数	36名	36名	変化なし
教区予算総額	約19.6億円／平均6,500万円	約19.9億円／平均1.1億円	平均は1.7倍
人件費(教務所)	約10億円	約9億円	約1億円減少
御依頼1指数単価	最小2,612円／最大9,428円	最小3,583円／最大6,408円	3.61倍⇨1.79倍
教区御依頼額	最小5.0千万円／最大6.2億円	最小9.7千万円／最大5.8億円	12倍⇨6倍
御依頼総額	53億5300万円	50億6200万円	約2.9億円減少
別院数	52別院	51別院	1別院 減少 (神戸別院)
専任輪番数	24名	31名	7名増加
教区教学研鑽機関数		27ヵ所	未設置教区…能登教区

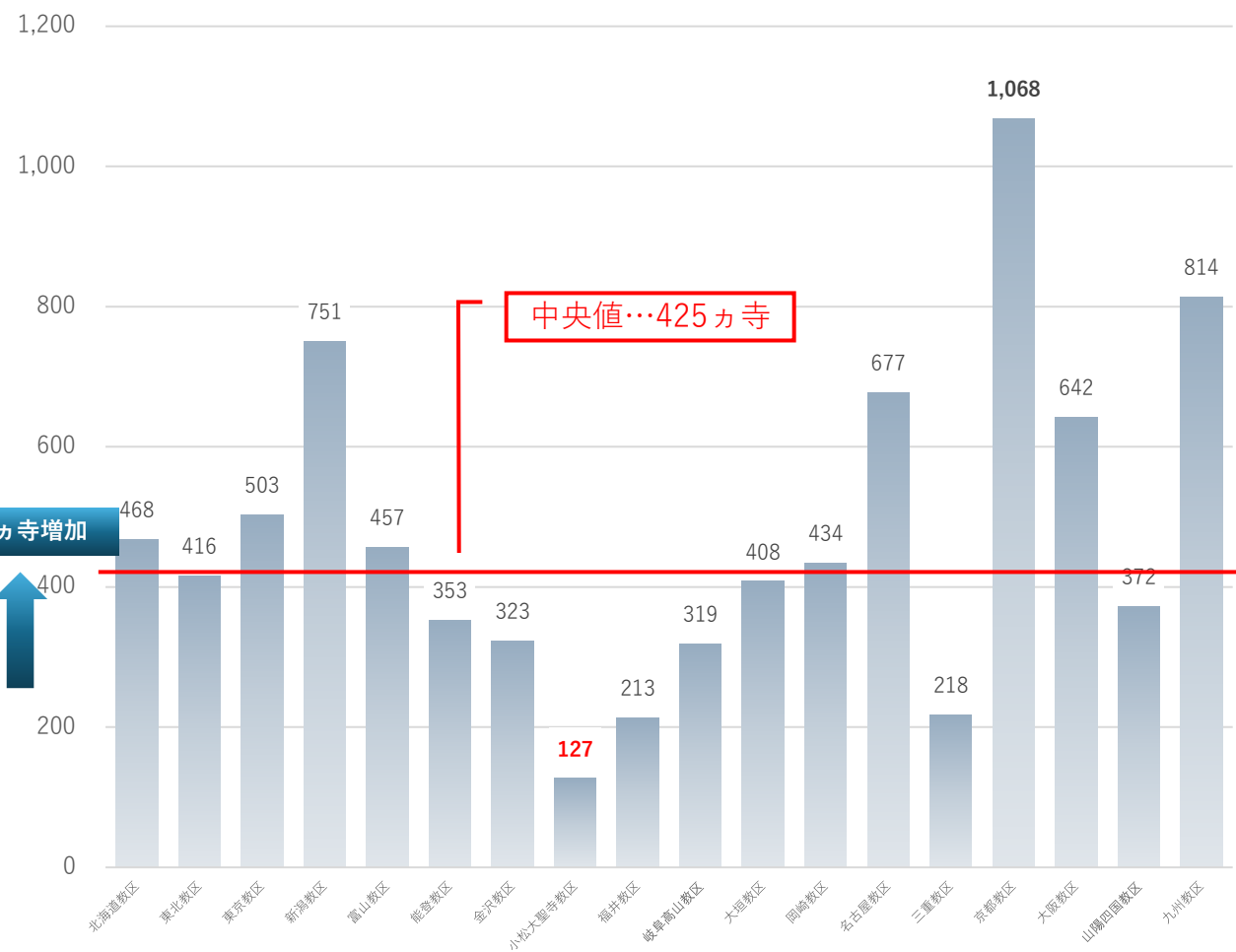
別院・寺院・教会数の変化

- 教区間の寺院数の差が大幅に縮小（改編前…1教区100ヵ寺未満が5教区(18倍)➤改編後…100ヵ寺未満なし（8倍））
- 約100ヵ寺～約200ヵ寺の教区は、小松大聖寺教区・福井教区・三重教区となった
- 教区に所在する寺院の中央値が267ヵ寺から425ヵ寺に増加

2008年度 寺院数（別院含）



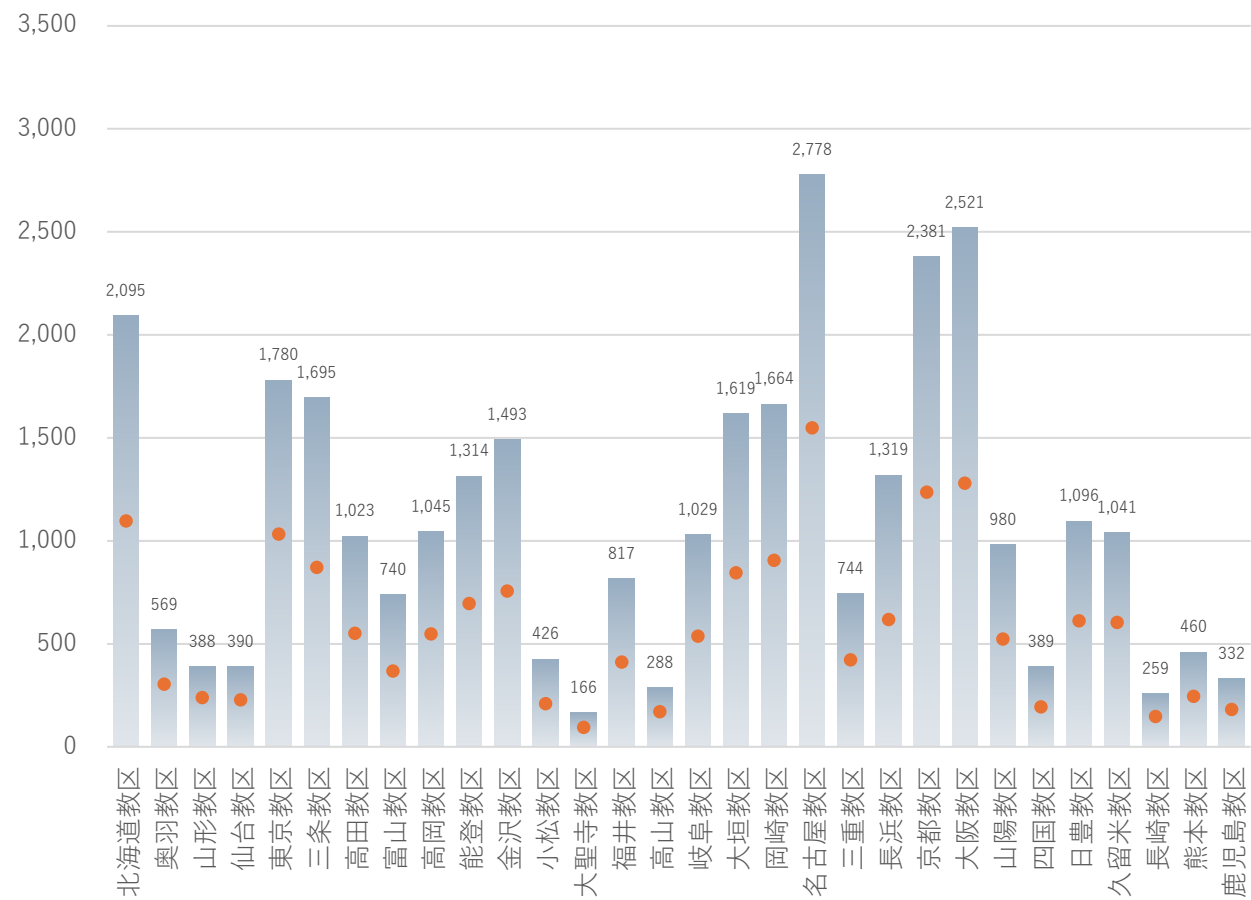
2025年度 寺院数（別院含）



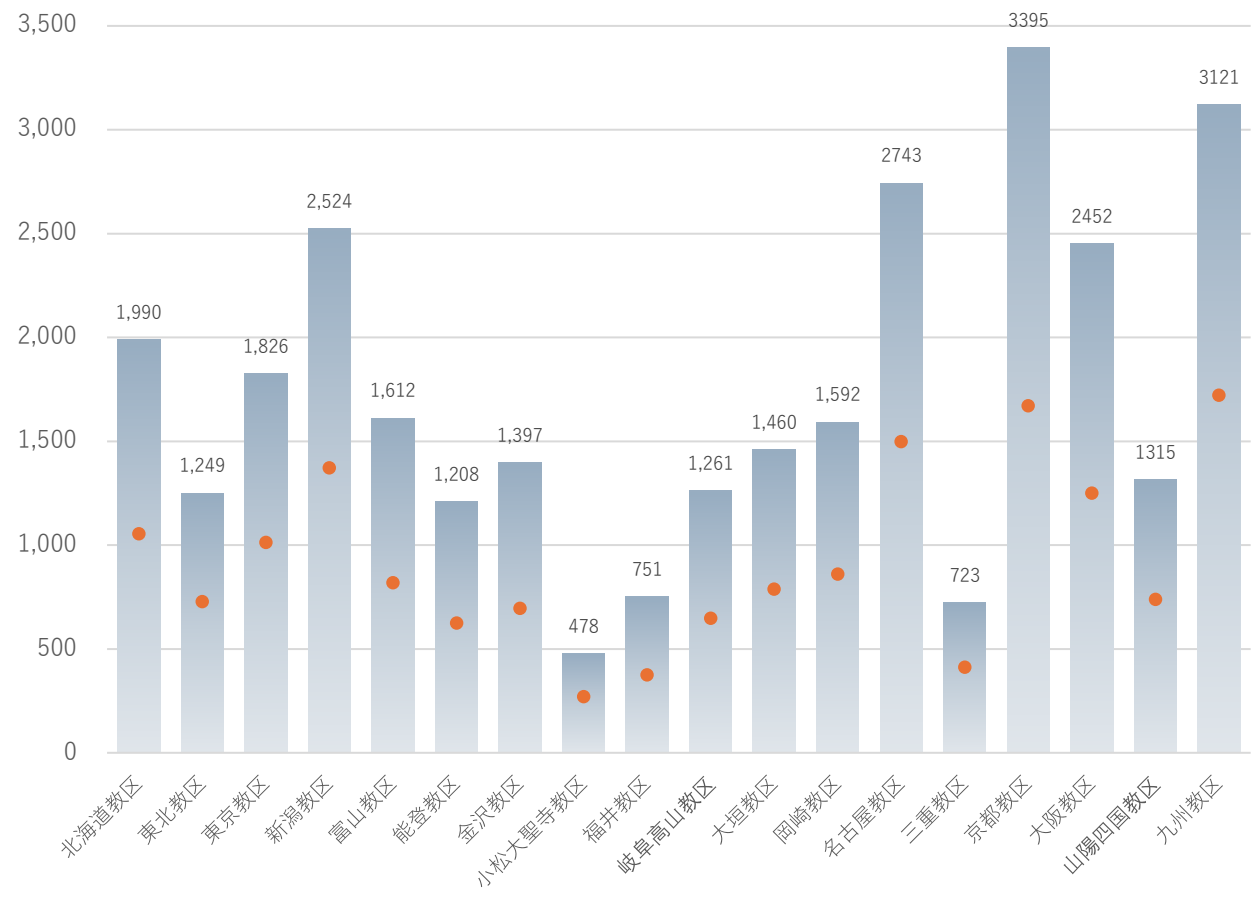
僧侶数と教師数の変化

- 教区間の僧侶数の差が大幅に縮小（改編前…17倍➤改編後…7倍）
- 1教区あたりの僧侶数が増加したことから、人の発掘・養成の幅が広がった
- 僧侶数の平均化が進んだことにより、教務所間の教務所業務も平均化が進むものと考えられる
- 教区間の教師数の差が大幅に縮小（改編前…16倍➤改編後…6倍）

2008年度 教区別僧侶数と教師数



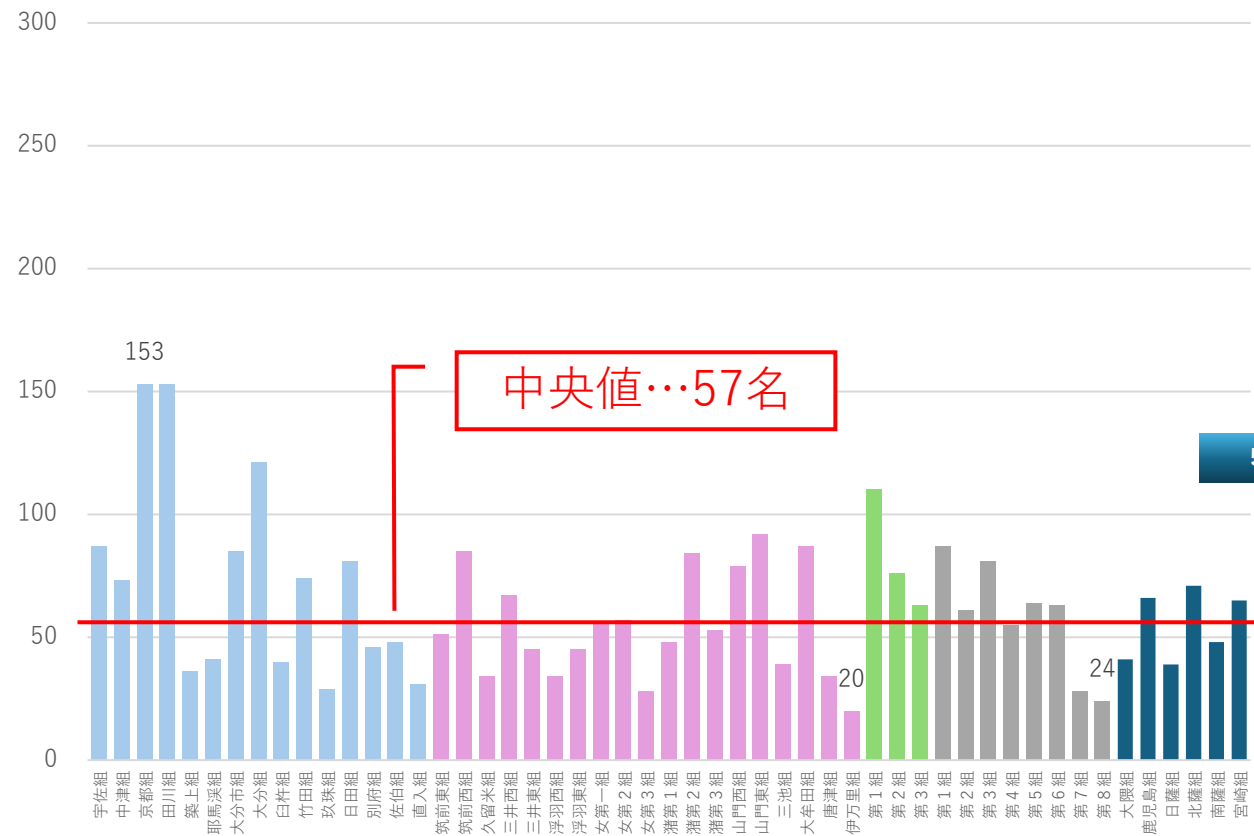
2025年度 教区別僧侶数と教師数



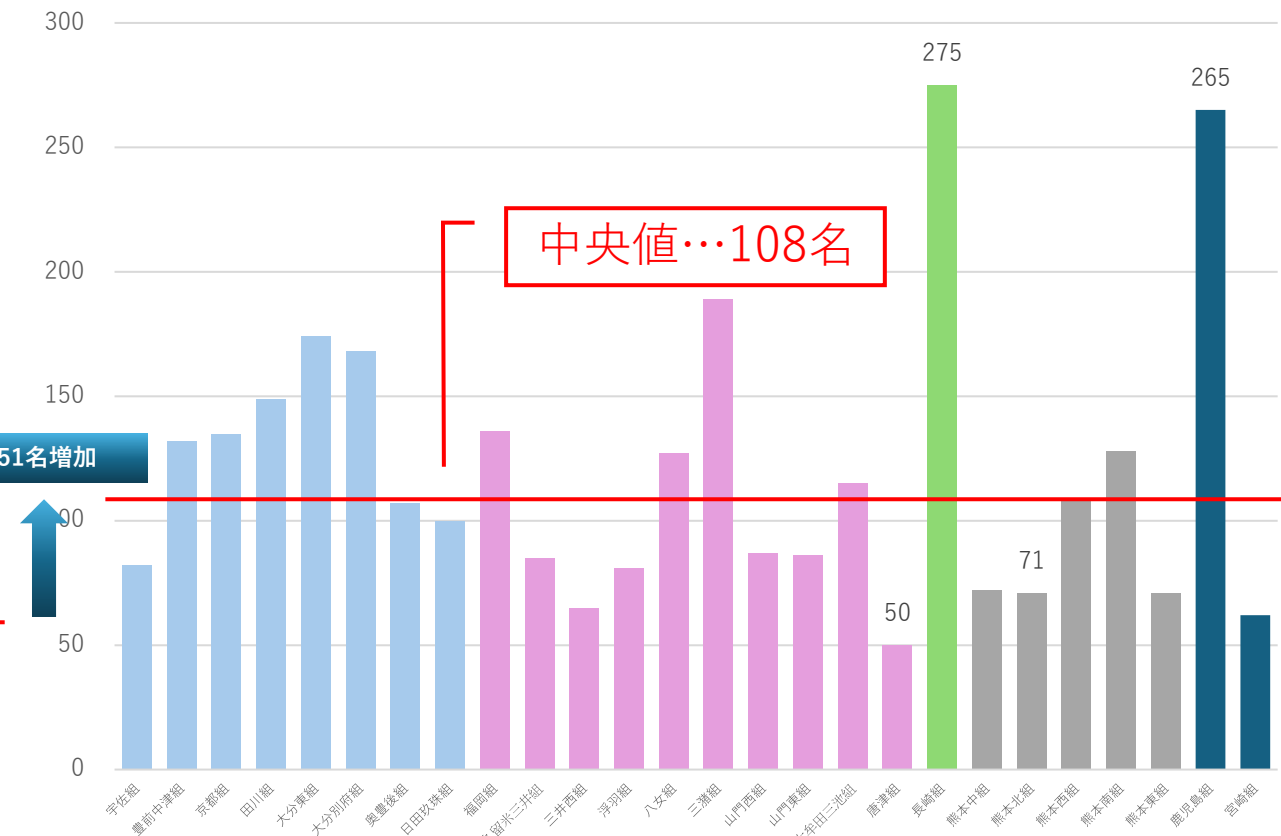
組の改編と僧侶数の変化～九州教区の事例～

- 教区改編と同時期に組の改編を行ったことにより、組の僧侶数の平均化が図られた
- (旧)久留米教区伊万里組は、僧侶数が20名から50名、(旧)熊本教区第8組は24名から71名に増加
- 僧侶数中央値が57名から108名に増加
- 組間の僧侶数の差が縮小（改編前…8倍➤改編後…6倍）
- 僧侶数の平均化が進むことで様々な事業等に関わる人の増加が期待される

≪組改編前≫九州教区 組別僧侶数（2008.7.1）



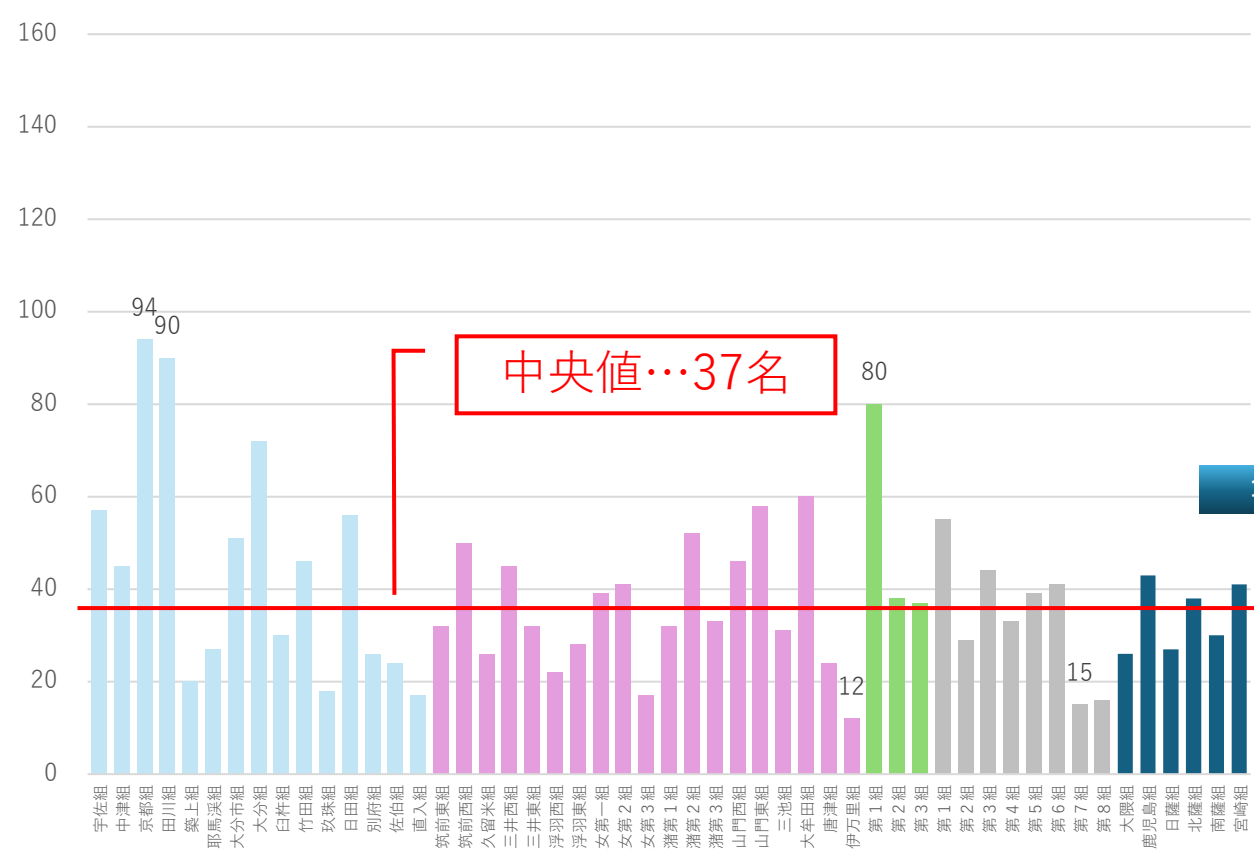
≪組改編後≫九州教区 組別僧侶数（2025.7.1）



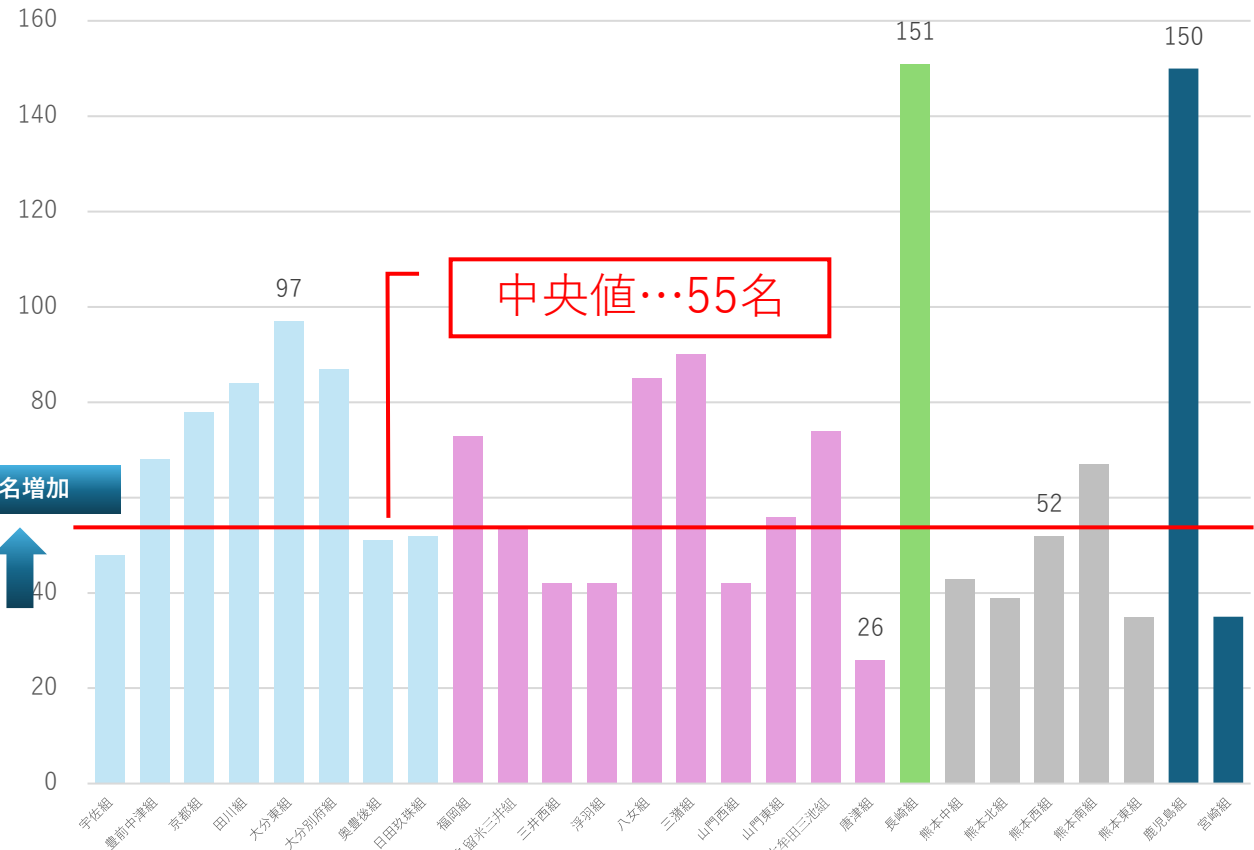
組の改編と教師数の変化～九州教区の事例～

- 教区改編と同時期に組の改編を行ったことにより、組の僧侶数の平均化が図られた
- (旧)久留米教区伊万里組は、教師数が12名から26名、(旧)熊本教区第7組は15名から51名に増加
- 教師数中央値が37名から55名に増加
- 組間の教師数の差が改善（改編前…8倍➤改編後…6倍）
- 教師数の平均化が進むことで様々な事業等に関わる人の増加が期待される

≪組改編前≫九州教区 組別教師数（2008.7.1）



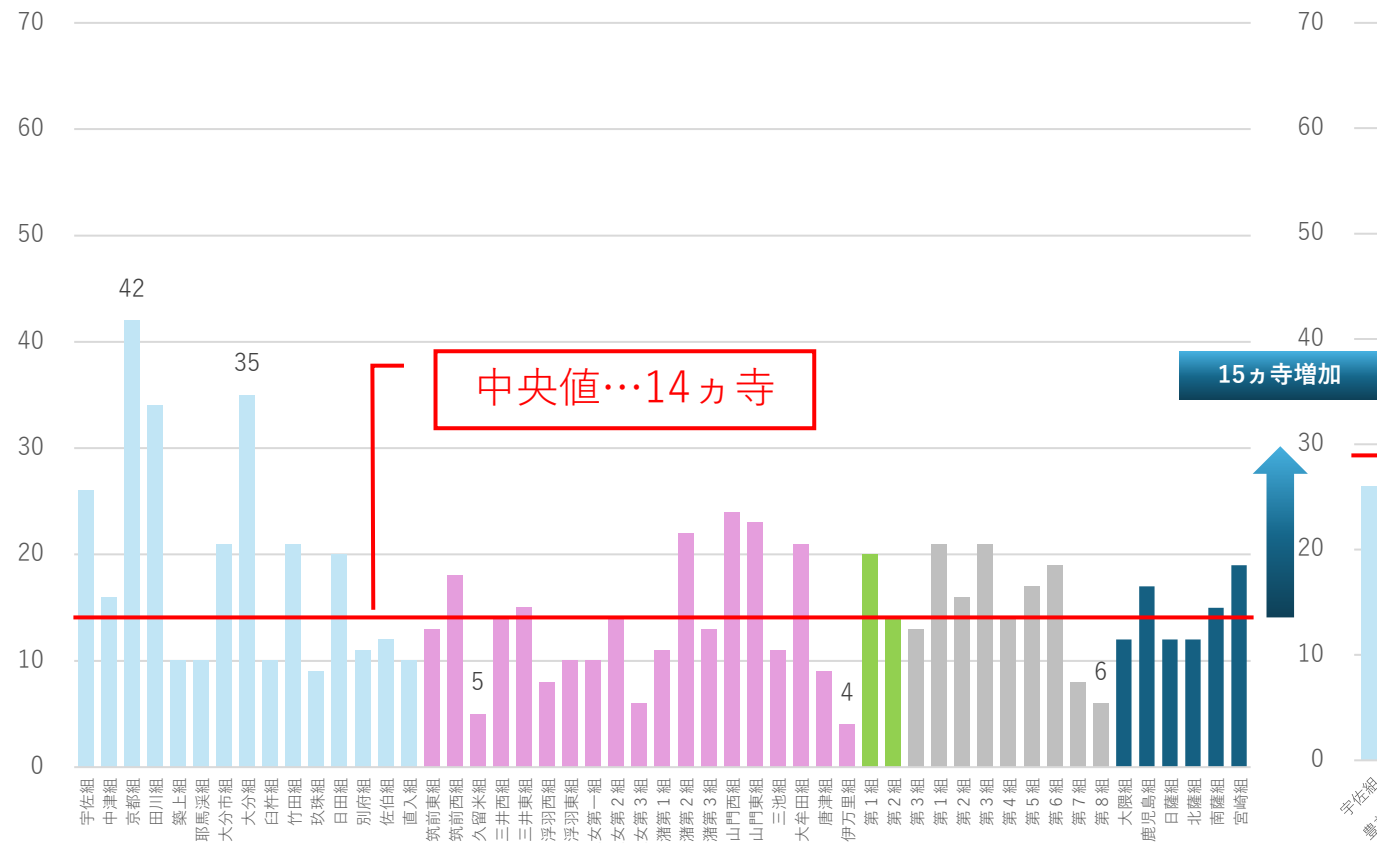
≪組改編後≫九州教区 組別教師数（2025.7.1）



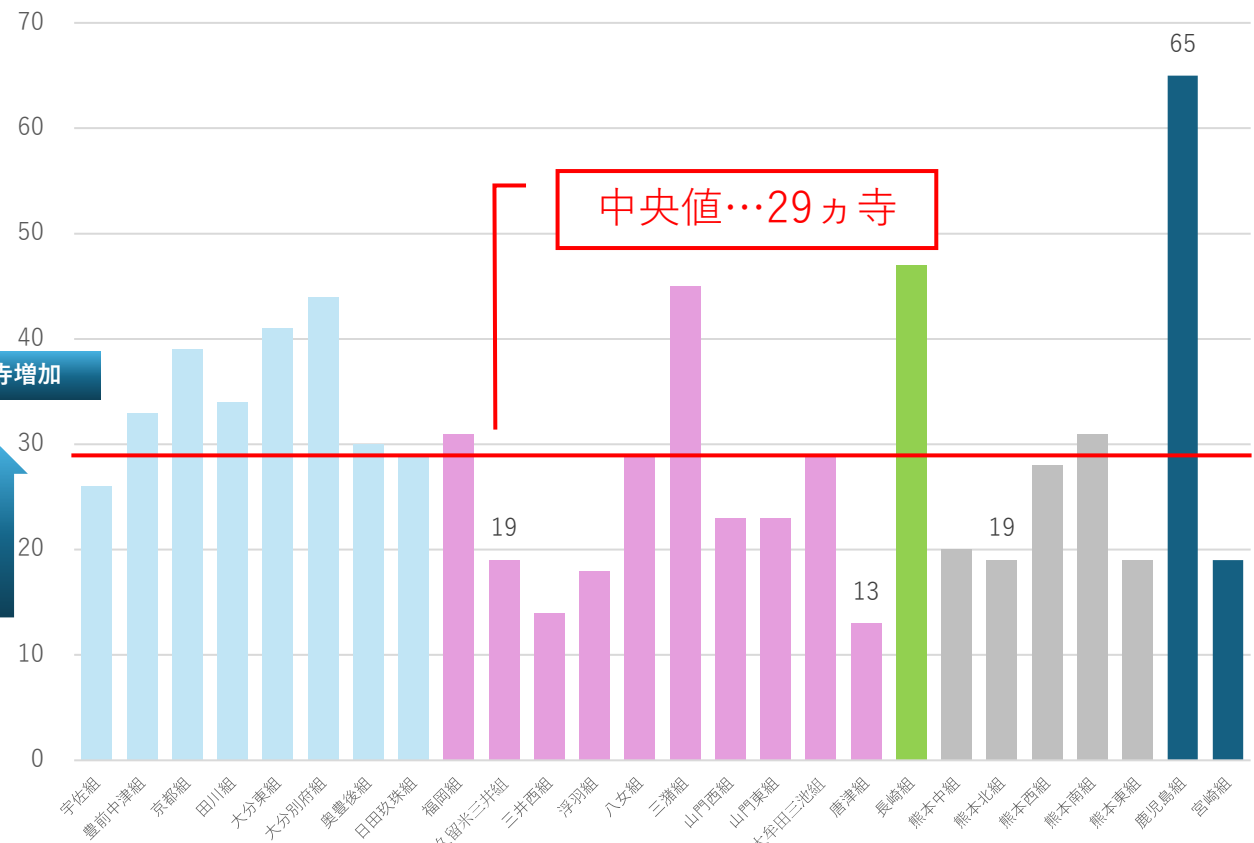
組の改編と寺院数の変化～九州教区の事例～

- 教区改編と同時期に組の改編を行ったことにより、組の寺院数の平均化が図られた
- (旧)久留米教区久留米組は5ヵ寺から19ヵ寺、(旧)久留米教区久留米組は4ヵ寺から13ヵ寺、(旧)熊本教区第8組は6ヵ寺から19ヵ寺に増加
- 寺院数中央値が14ヵ寺から29ヵ寺に増加
- 組数の減少により、役職者（組長・会計他）選定の負担の軽減が期待される

《組改編前》九州教区 組別寺院数（2008.7.1）



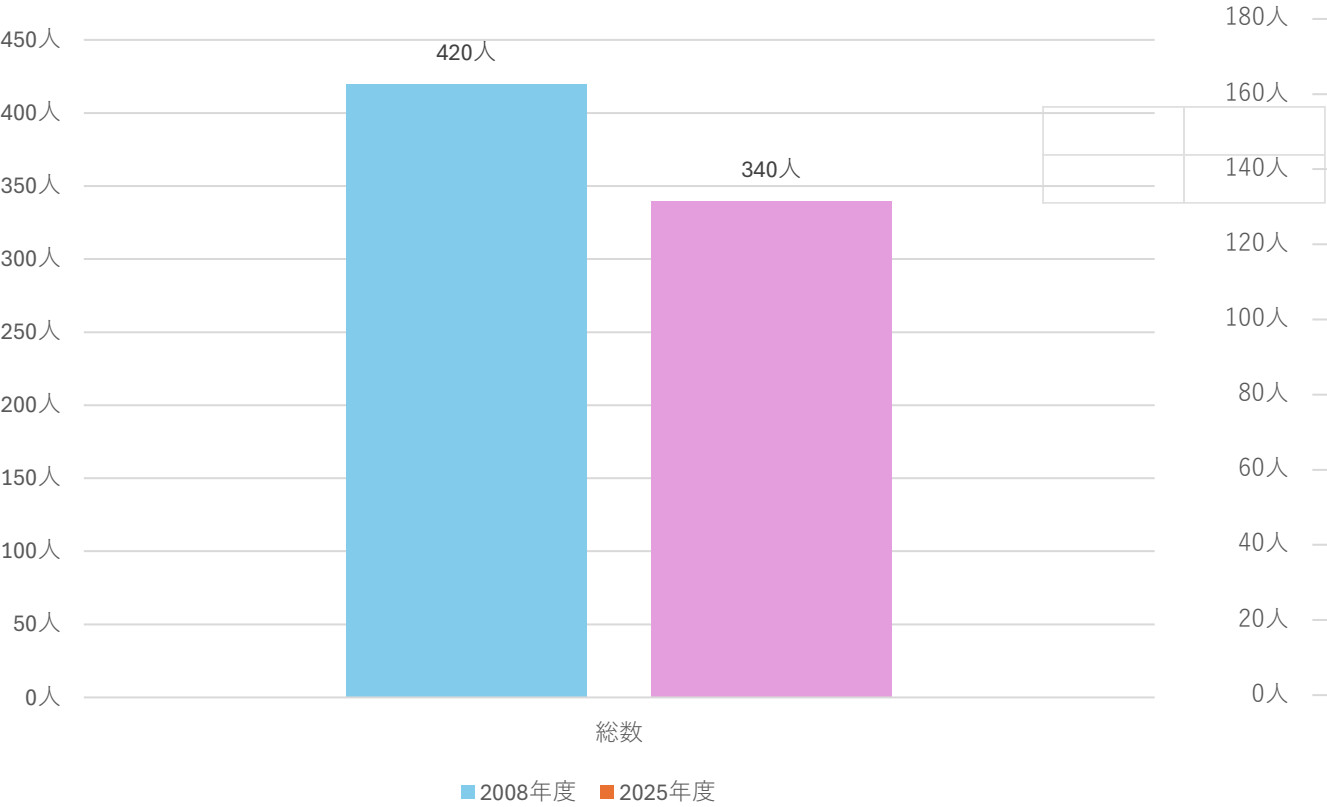
《組改編後》九州教区 組別寺院数（2025.7.1）



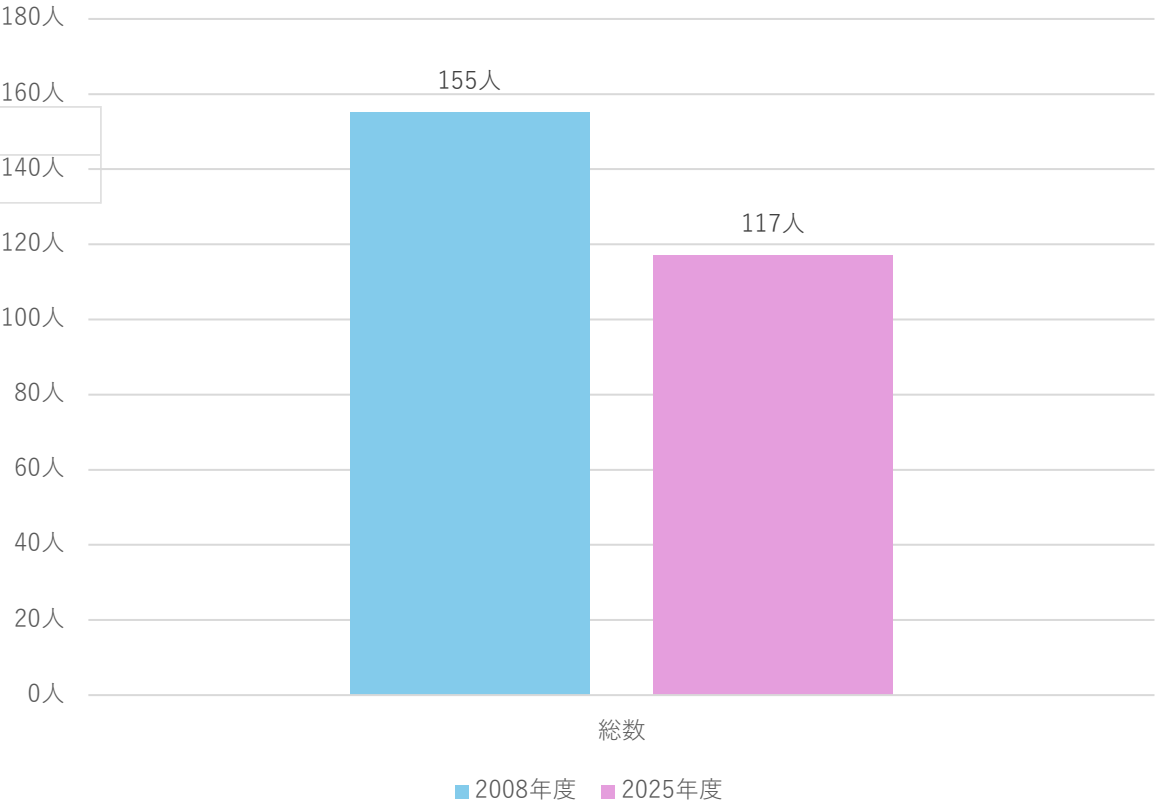
宗務役員数(総数と教務所員)の変化

- 教務所員（事務職）は38名（25％）減少
- 教区改編によって必ず置かれる教務所長・主計（計24名減）の他、事務の中心になる主事・書記・嘱託を整理した人員配置を行った
- 九州教区では教務支所に教務所員を配置していない（福岡支所には職員を配置）
- 東北・新潟・富山・岐阜高山・京都・山陽四国教区は、教務支所にも教務所員が配置されている
- 事務職は減少する一方、教化の充実を図る教区駐在教導は人員数が維持されている

宗務役員（事務職）総数の推移

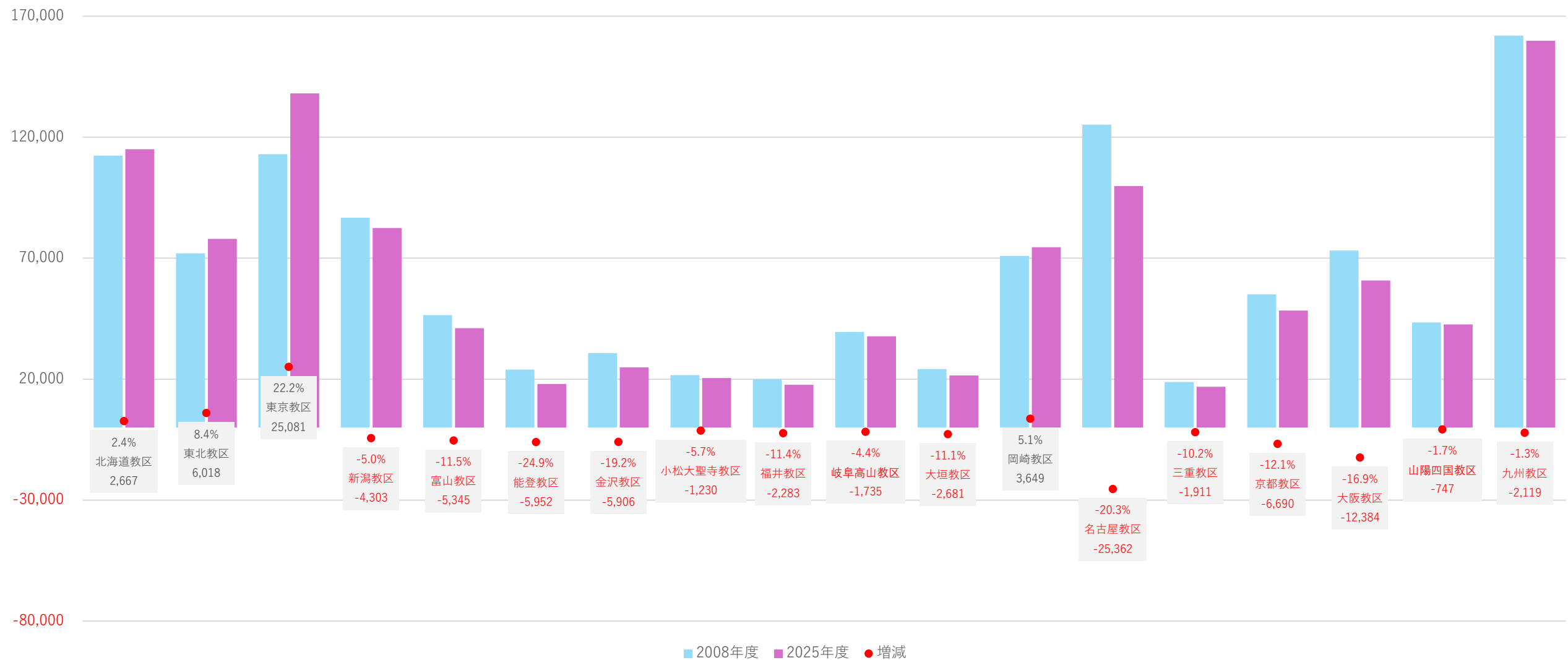


教務所員（事務職）人数の推移



門徒戸数調査結果(門徒指数)の変化

門徒戸数調査結果の変化



教区別御依頼1指数あたりの単価の変化(上段…2008年度比増減／中段…教区名／下段…指数単価) 赤字は指数単価が減少した教区

- 継続した門徒戸数調査や教区改編に伴う御依頼額の減額によって、御依頼1指数あたりの単価は徐々に狭まりつつある
- 改編教区の指数単価は再計算を行っているため、2008年当時の指数単価とは異なる（旧長浜教区等は新教区として表示）
- ※能登教区に対して2024年能登半島地震を受けた減額措置が講じられている

教区別御依頼1指数あたりの単価（●…2008年度 ●…2025年度）



別院輪番(専任／兼任)の変化

- 9 別院が兼任から専任輪番へと移行 ※高須別院（大垣教区）と大和大谷別院（大阪教区）以外は改編教区
- 長浜別院と五村別院は兼務輪番
- 減となった神戸別院は、2008年度において姫路船場別院に吸収合併

別院番号	別院名	2008年度	2025年度	別院番号	別院名	2008年度	2025年度	別院番号	別院名	2008年度	2025年度
01-00-01	札幌別院	専任	専任	11-00-02	鶴来別院	専任	専任	22-00-01	赤野井別院	専任	専任
01-00-02	函館別院	専任	専任	14-00-01	福井別院			22-00-02	大津別院	専任	
01-00-03	旭川別院	専任	専任	14-00-02	吉崎別院			22-00-03	山科別院		
01-00-04	帯広別院	専任	専任	15-00-01	高山別院		専任	22-00-04	岡崎別院	専任	専任
01-00-05	根室別院	専任	専任	16-00-01	大垣別院			22-00-05	伏見別院		
01-00-06	江差別院	専任	専任	16-00-02	高須別院		(専任)	23-00-01	難波別院		
04-00-01	東北別院			17-00-01	岐阜別院			23-00-02	天満別院	専任	専任
04-00-02	原町別院			17-00-02	竹鼻別院	専任	専任	23-00-03	八尾別院	専任	専任
05-00-01	横浜別院	専任	専任	17-00-03	笠松別院	専任	専任	23-00-04	茨木別院	専任	専任
05-00-02	甲府別院			18-00-01	三河別院			23-00-05	大和大谷別院		(専任)
06-00-01	三条別院			18-00-02	豊橋別院	専任	専任	24-00-02	姫路船場別院		
07-00-01	高田別院			18-00-03	赤羽別院	専任		24-00-03	赤穂別院	専任	専任
07-00-02	新井別院			18-00-04	静岡別院	専任	専任	24-00-04	広島別院		専任
08-00-01	富山別院			19-00-01	名古屋別院	専任	専任	25-00-01	土佐別院		専任
09-00-01	井波別院	専任	専任	20-00-01	桑名別院			26-00-01	四日市別院		専任
09-00-02	城端別院	専任	専任	21-00-01	長浜別院		専任	28-00-01	佐世保別院	専任	専任
11-00-01	金沢別院			21-00-02	五村別院		専任	30-00-01	鹿児島別院		専任
								24-00-01	神戸別院		